

そば及びなたねをめぐる状況について

平成27年1月
農林水産省

目次

- 1 そばの需給と生産動向 P 1
- 2 国産そばの価格動向と輸入状況 P 2
- 3 そばの新品種と単収向上・安定性技術 P 3
- 4 なたねの需給と生産動向 P 4
- 5 国産なたねの価格動向と輸入状況 P 5
- 6 なたねの新品種開発 P 6

1 そばの需給と生産動向

- そばの需要量は、年間12～14万トン程度であり、このうち国産そばは3～4万トン程度が供給されている。
- 水田における作付面積は、米の需給調整の規模の影響を大きく受け増減している。また、畑においては北海道が5割程度を占めており、増加傾向で推移している。
- 23年度からの経営所得安定対策の導入以降、作付面積が拡大し、25年産は22年産に比べて約3割(13,700ha)増加し、全国で61,400ha、生産量は33,100トンとなっている。
- 水田での作付増加に伴い、単収・収穫量が毎年大きく変動している。このため、実需者から安定生産が求められている。

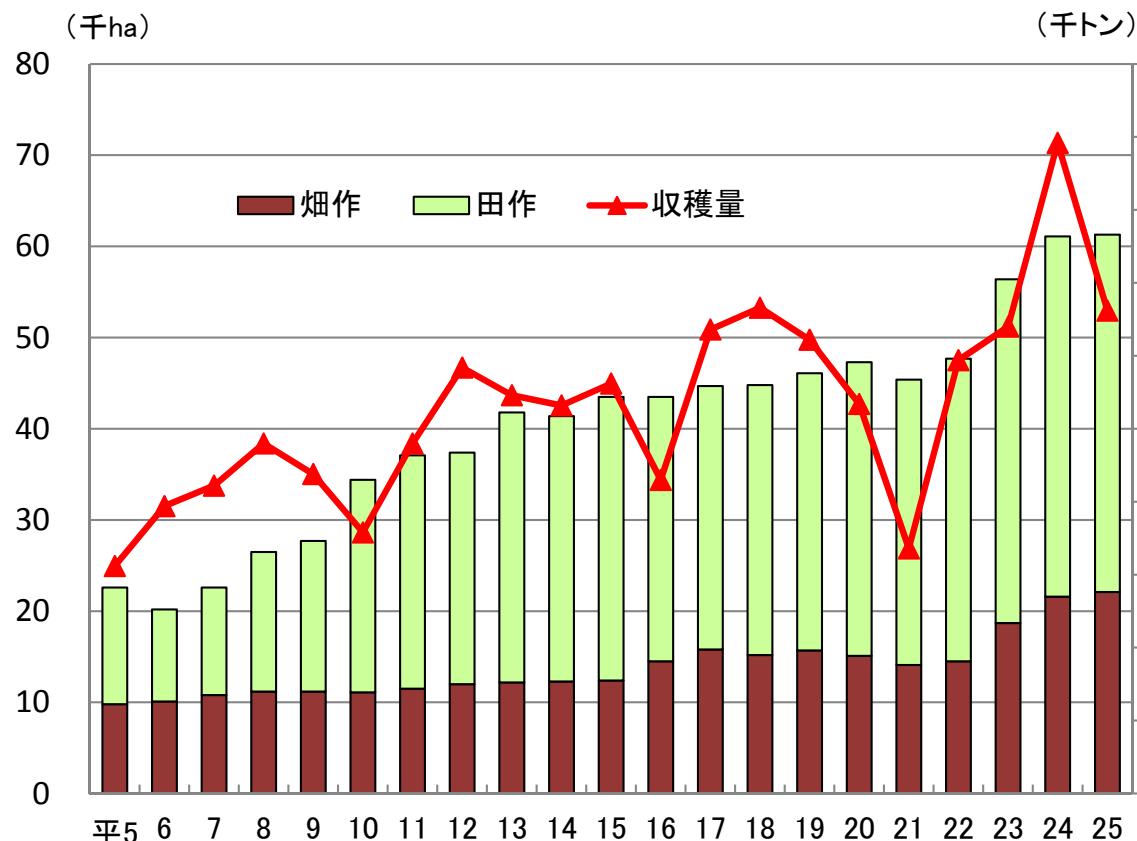
○ そばの需給状況

単位：千ha、千トン、%

	国内消費 仕向量	国内 生産量	輸入量	自給率
21年度	121	17	106	14
22年度	121	30	111	25
23年度	119	32	94	27
24年度	132	45	102	34
25年度	141	33	95	24

注：輸入量は、玄そば及びそば抜き実(玄そば換算)の合計

○ そばの作付面積と収穫量の推移



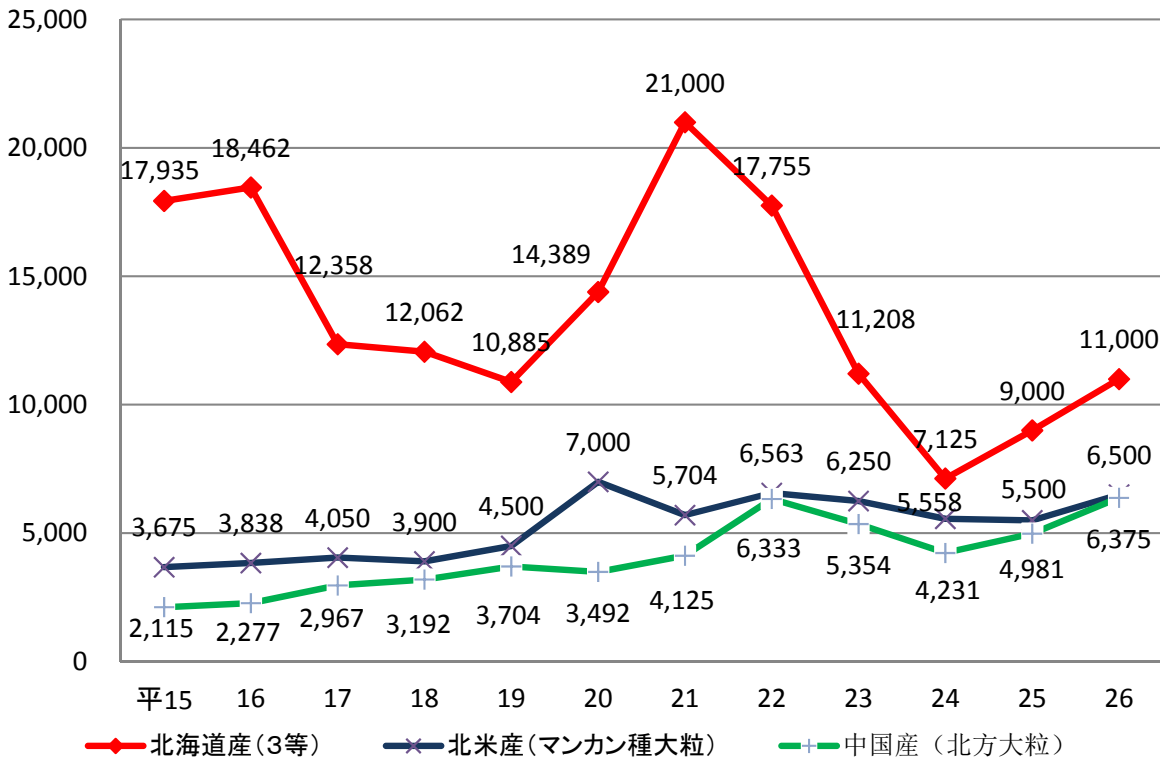
資料：農林水産省統計部「作物統計」等

2 国産そばの価格動向と輸入状況

- 国産そばの取引価格は、輸入品と比べて2～3倍の価格で取引されていたが、作付拡大に伴い価格差が縮小。また、作柄の年次変動が大きく、それに伴い価格も大きく変動している。
- 我が国のそばの輸入量は、中国及びアメリカで98%を占める。

○ 玄そばの取引価格

円/45kg

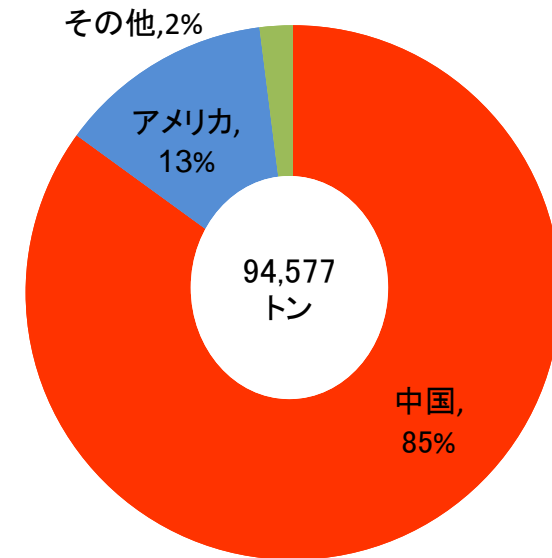


資料: 日本経済新聞

注1: 取引価格は、各年とも10月～翌年9月までの平均値。

注2: 北海道産は、問屋工場持ち込み価格(北海道産3等)での平均価格。26年は10月～11月の平均価格。

○ 我が国のそば輸入の国別割合(25年度)



資料: 貿易統計

注: 玄そば及びそば抜き実(玄そば換算)の輸入数量の合計

(参考) そばの関税率

品名	HSコード	関税率(協定)
玄そば	1008.10.010	9%
抜き実そば	1104.29.310	17%

3 そばの新品種と単収向上・安定生産技術

- 新品種については、消費者ニーズを踏まえた上で、多収性、難脱粒性(熟しても実が落ちにくい)、倒伏しにくい等の機械化収穫適性を備えた品種開発が進んでいる。
- そばは湿害に弱いため、ほ場の団地化や排水対策の徹底が重要。また、湿害を軽減する畝立て播種技術が開発されており、今後普及を図る必要がある。

○ 近年育成された新品種

* 地域の作型や気候に応じた品種を選定する必要があります

「レノカオリ」

食味が良く、既存品種「キタワセソバ」よりも早生で多収。作期の分散が可能

「キタノマシュウ」

倒伏しにくく、「キタワセソバ」より食味に優れる。

「満天きらり」

苦味がほとんど無く、ルチンの多い麺等が出来るだったんそば

「にじゆたか」

東北地方の夏播に適し、耐倒伏性に優れ、大粒で加工適性が高い

「なつみ」

食味の良い夏そば品種。7月上旬に収穫が可能。

「とよむすめ」

多収で食味の良い秋そば品種。

「タチアカネ」

倒伏しにくいため機械収穫に適する。乳熟期の果皮が赤くなるため、新たな景観を提供し、観光資源としての活用も考えられる。

「長野S8号」

そば殻を除いた抜き実が鮮やかな緑色で香り高い

「春のいぶき」

九州では、春に播種し、初夏(6月上中旬)に収穫する春播き栽培に適する。そば需要がピークの夏期に新そばを提供できる。

「さちいずみ」

栽培期間が短く、多収な秋そば品種。台風襲来期を避けた晩播により、台風被害の回避が可能。

○ 湿害を軽減する技術

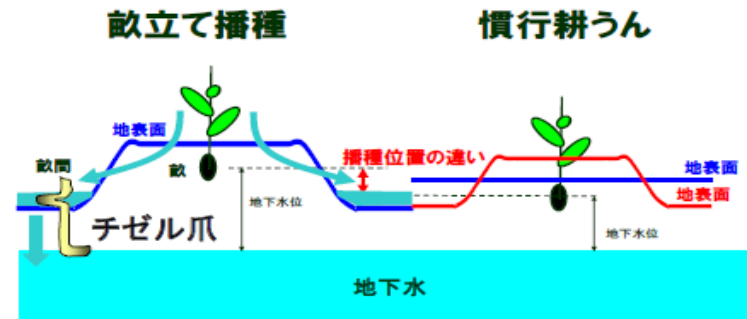
「耕うん同時畝立て作業技術」(農研機構北陸研究センター)

畝立てにより湿害を軽減できるため、ソバの収量が増加する。また、一工程で耕うんと同時に畝立て、施肥、播種作業を行うため、効率的に作業ができ、は種適期を逃しにくい。



耕うん同時畝立て播種の効果(地下水位・表面排水)

播種位置が高いため、湿害が回避できる



4 なたねの需給と生産動向

- 油糧用なたねの供給量は、年間250万トン程度であるが、ほとんど輸入に依存しており、国産はわずか2千トン程度（供給量に占める割合は0.1%）となっている。
- 近年の作付面積は、1,500ha～1,700ha程度で推移。北海道と青森県で全国の約4割が作付されている。

○ なたねの需給状況

単位：千トン、%

	国内消費 仕向量	国内 生産量	輸入量	自給率
21年度	2,164	1	2,072	0.1
22年度	2,296	2	2,344	0.1
23年度	2,349	2	2,319	0.1
24年度	2,406	2	2,408	0.1
25年度	2,395	2	2,461	0.1

資料：農林水産省食品製造卸売課「我が国の油脂事情」、農林水産省「作物統計」及び貿易統計

○ 最近5カ年の生産状況

	22年産	23年産	24年産	25年産	26年産
作付面積 (ha)	1,690	1,700	1,610	1,590	1,470
生産量 (トン)	1,570	1,950	1,870	1,770	1,780

資料：農林水産省統計情報部「作物統計」

○ 作付上位5道県の生産状況(平成26年産)

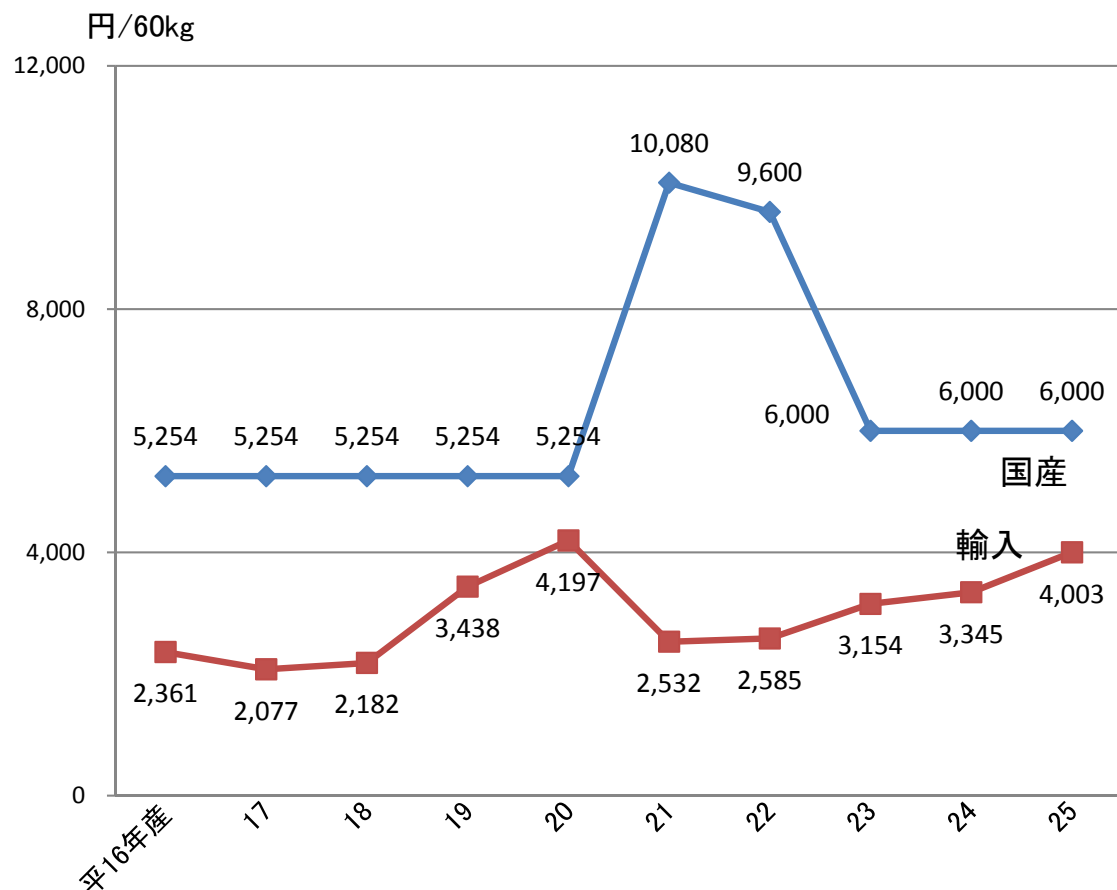
道県名	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (トン)
全国	1,470	121	1,780
都府県	1,060	90	957
北海道	404	204	824
青森県	246	177	435
秋田県	88	47	41
熊本県	74	68	50
福島県	67	37	25

資料：農林水産省統計情報部「作物統計」

5 国産なたねの価格動向と輸入状況

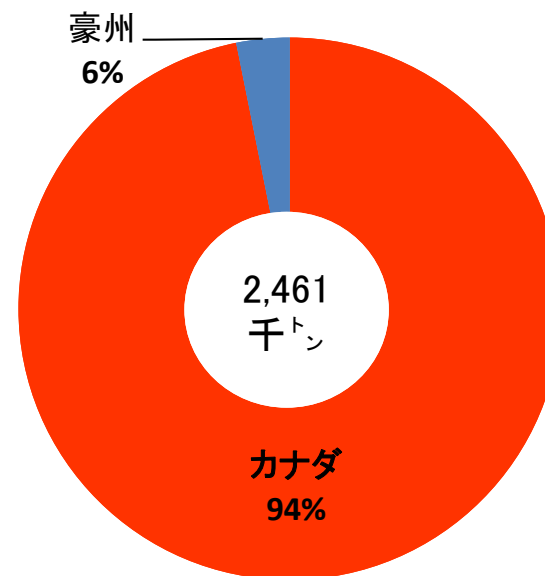
- 国産なたねの価格は、産地と実需者間の播種前契約により 比較的安定した取引価格となっている。また、近年の輸入なたね価格の上昇により、国産なたねと輸入なたねとの価格差は縮小(25年:1.5倍)している。
- 我が国の輸入なたねは、ほとんどカナダから輸入されている。

○ なたねの価格推移



注: 国産は生産者団体売渡価格(年産)、輸入はCIF価格(暦年)である。

○ 我が国のなたね輸入の国別割合(25年)



資料:財務省「貿易統計」

(参考)なたねの関税率

品名	HSコード	関税率
なたね(低エルカ酸)	1205.10.000	0%

6 たたねの新品種開発

○ たたねの新品種の育成については、北海道から九州までの各地域に適した収量性に優れ、エルシン酸を含まない、グルコシノレートの低い品種の開発が進んでいる。

○ 近年育成された新品種

「キタノキラメキ」

・北海道十勝地域等の寒地向け、無エルシン酸で「キザキノナタネ」に比べやや多収で、寒地で収量が安定。

「キラリボシ」

・東北中南部地域向け。日本で初めて育成されたダブルロー品種（無エルシン酸かつ低グルコシノレート）。油かすは家畜飼料にも適す。

「ななしきぶ」

・関東以西の温暖地向け。無エルシン酸で暖地栽培に適す

「ななはるか」

・九州南部等の暖地向け。無エルシン酸で「ななしきぶ」よりも成熟が早く、梅雨入り前に収穫が可能。



○ エルシン酸とグルコシノレートとは

- エルシン酸は、心臓障害を引き起こす人体に有害な脂肪酸
- グルコシノレートは、搾油後の油粕に残存し、家畜等の動物に甲状腺障害をもたらす含硫化合物の一種
- 無エルシン酸で、かつ低グルコシノレートの品種は、ダブルロー品種と言われ、日本では「キラリボシ」が唯一のダブルロー品種
- 世界的には、油粕の飼料としての需要を背景に、ダブルロー品種がスタンダード。

○ 今後普及が期待される品種

品種名	特徴
キタノキラメキ (24年開発)	北海道十勝地域等の寒地向けの無エルシン酸の品種。「キザキノナタネ」に比べ越冬性に優れ、やや多収で晩播適性に優れているため、寒地で収量が安定。また、含油率が高い。
ななはるか (25年開発)	九州南部地域の暖地向けの無エルシン酸の品種。「ななしきぶ」に比べ成熟期が4日早く、梅雨入り前に収穫可能なため、後作との作期競合を解決可能。また、圧搾油の食味がやや優れる